



8月10日は「道の日」

道路ニュース

THE ROAD NEWS No. 544

平成27年3月号

発行所 全国道路利用者会議
〒100-0013
東京都千代田区霞ヶ関3-3-1
尚友会館6階
電話 03-3501-5611(代)
発行人 和田 浩
定価 20 円(会員の購読料は会費に含む)

「道の駅」による地域活性化の促進

～重点「道の駅」制度の創設～

【はじめに】

平成5年(1993年)

に「道の駅」の登録制度を創設してから20年以上が経過し、これまでの間、地域の創意工夫により、「道の駅」を地域活性化の拠点とする取組が進展してきた。国土交通省では、経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールとして「道の駅」を活用していくとともに、地方創生を進めるための「小さな拠

点」とするべく、今後、重点「道の駅」制度を創設した。先駆的な取組を重点「道の駅」として選定し、国民に広く周知し、関係機関が連携して支援することにより、「道の駅」を核とした地域活性化の取組を促進していくものであり、本稿において、その内容を紹介する。

【1. 重点「道の駅」制度の概要】

元々、「道の駅」は、ドライバーが立ち寄るトイレ・休憩施設として生まれ、その後、情報提供機能、地域連携機能を有する休憩施設として整備を進めてきた。

本制度では、地域外から活力を呼ぶ「ゲートウェイ型」と地域の元気を創る「地域センター型」の2つ

を今後目指していく方向性として掲げている。(図1)

「ゲートウェイ」型の狙いの一つは、人口減少社会の中で、観光振興等によつて交流人口の増加を図ることがあげられる。

各地の特産物や観光資源を活かして、観光客を呼び込むことは、地方経済に与える波及効果は大きい。地域の観光総合窓口として、着地型観光の基地としてのポテンシャルをさらに高めていく他、訪日外国人の数が大きく伸びている中、東京以外の地域にも外国人観光客の訪問を広げるべく、免税店や外国人案内所等の機能の強化が求められる。この他にも、地方移住の窓口など直接的な人口増加への機能発揮が期待される。

また、「地域センター型」の狙いとしては、昨年末に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で位置づけられた中山間地域等における「小さな拠点」の形成支援が挙げられる。

地域の元気を創る
地域センター型

地域の産業振興
地方特産品のブランド化、6次産業化 等

地域福祉の向上
診療所、役場機能、高齢者住宅 等

高度な防災機能
広域支援の後方支援拠点、防災教育 等

(※ 機能を兼ねるタイプも想定)

「道の駅」が
活力を呼び、雇用を創出、
地域の好循環へ

地域外から活力を呼ぶ
ゲートウェイ型

地域の観光総合窓口機能
地域全体の観光案内、宿泊予約窓口 等

インバウンド観光の促進
外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、海外対応ATM 等

地方移住等の促進
地方移住のワンストップ窓口
ふるさと納税の情報提供 等

図1 重点「道の駅」に想定される機能

人口減少社会の中、医療や福祉、買い物、燃料供給等の日常サービスの提供に支障が生じないよう、これらの機能を「小さな拠点」に集約し、維持を図っていくことが必要であり、「道の駅」がその核となることが期待される。

次に、本制度における重点「道の駅」の分類として、設置から一定年数以上経過し地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められる「道の駅」である『全国モデル「道の駅」』と各道の駅から企画提案があり、今後の重点支援により効果的な取組が期待される『重点「道の駅」』及び

企画の具体化に向け、地域の意欲的な取組が期待される『重点「道の駅」候補』によって構成されている。

【2. 重点「道の駅」の選定】

(1) 全国モデル「道の駅」

全国1040の「道の駅」の中から、地方整備局等の実施した調査等に基づき、地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるものを『全国モデル「道の駅」』として国土交通大臣が選定することとした。

その際、設置から一定年数以上経過し、継続的な地域貢献の視点も加味し、道路利用者の認知度を含めて、先に述べた地域のゲートウェイや地域センターとして発揮してきた役割など、これまでの実績を評価したものである。

『全国モデル「道の駅」』は、既に高い実績を上げていることから、全国的なモデルとして成果やその取組の内容を広く周知し、他の道の駅の参考となるべく、さだめる高みを目指して、利用者への広報や機能向上について、重点支援することとした。

(2) 重点「道の駅」

平成26年(2014年)8月28日に発表した本制度の取組方針に基づき企画提案を募集した結果、提案のあった110(※)の道の駅の中から、地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるものを『重点「道の駅」』として国土交通大臣が選定することとした。(※複数の道の駅が連携した企画提案は、1つの企画提案としてカウント)

『重点「道の駅」』の中には、今後設置予定のものも含まれており、これまでの実績ではなく、提案された取組実施内容について、実現可能性も含めて評価したものである。

選定された『重点「道の駅」』については、施設整備等を含め、提案された取組を実現するために、各道の駅単位を基本とした関係機関から構成される協議会を立ち上げ、ワンストップの重点支援を連携して実施することとした。

(3) 重点「道の駅」候補

「道の駅」有識者懇談会においては、重点「道の駅」の選定に加えて、多様な発展が見られる「道の駅」の取組を広く共有し、「道の駅」のさらなる活用を図るための取組の実施、「道の駅」を巡る課題や今後のあり方等について、専門的見地からの意見をいただいている。(図2)

【3. 選定結果】

これら選定プロセスを踏まえ、全国の道の駅から、『全国モデル「道の駅」』全6箇所が、また地方整備局等を通じて全国110の企画提案から『重点「道の駅」』全35箇所、『重点「道の駅」候補』全49箇所が決定された。(図3)

ここでは、『全国モデル「道の駅」』として選定された全6駅の特長について記す。

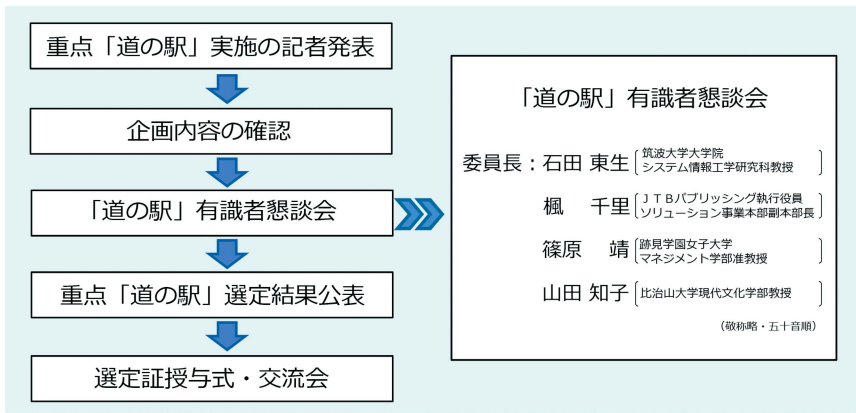


図2 重点「道の駅」選定の流れ

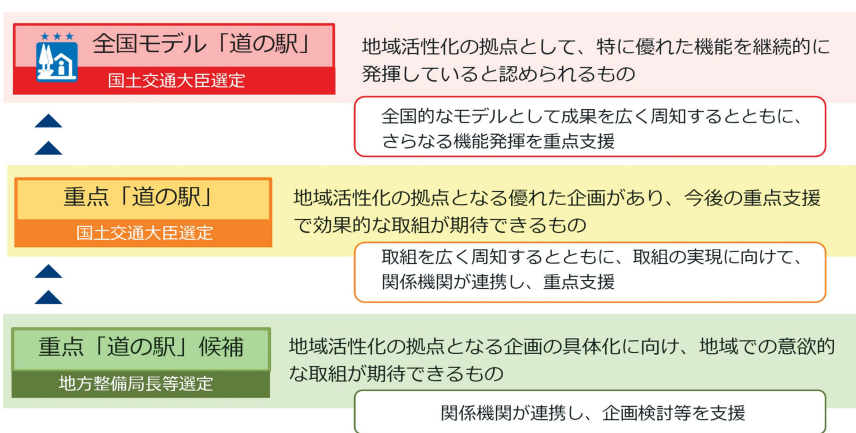


図3 重点「道の駅」選定箇所(全国モデル「道の駅」、重点「道の駅」)

♪今月のことば♪

「Le retour est pire que matines.」
帰り道が早天祈禱より悪い
初めより結果が悪くなること。
ランス)

全国道路利用者会議編「道の駅」を言葉集より

平成27年度道路関係予算決定概要説明会

去る2月19日、東京都千代田区のルポール麹町に於いて、全国道路利用者会議と道路整備促進期成同盟会全国協議会の共催による「平成27年度道路関係予算決定概要説明会」を開催した。地方会議員、特別会

また説明会終了後、池田豊人環境安全課長と出席した首長の間で、地方における諸課題等について意見交換が行われた。

関係者など約230名が参加した。説明会の冒頭、竹内俊夫道路整備促進期成同盟会全国協議会会長(東京都青梅市長)が挨拶を行った。

続いて、国土交通省道路局の黒田憲司次長、橋本雅道企画課道路事業調整官、山田哲也



“道路総合システムサービス”企業

NICHIREKI

二チレキ株式会社

東京都千代田区九段北4-3-29 TEL 03(3265)1511代表